

(一社)港まちづくり協議会大阪と大阪市大 による「小さな交通」研究



一般社団法人港まちづくり協議会大阪では、松本英之事務局長・理事を中心に大阪市大と連携して、今後の高齢化社会・大観光社会で必須となる「小さな交通」とくに超小型EVの研究を進めてきました。

(1)これからは「通勤通学」が減り「高齢者の通院・買い物」や「観光」が増えます。これまでは「通勤通学」だけを中心にまちを作ってきたので変わる必要があります。

(2)「通勤通学」の人の動きと「通院・買い物」「観光」の動きの最大の違いは、これまでは多くの人の方向がそろっていたのに、これからはバラバラなこと。したがって、ルートを決めない「小さな個人的交通」が重要になります。そこで国は、このような超小型EVという乗り物を「シニア」「観光」のアシとみて、全国約50カ所(横浜、神戸、北九州、奈良県、豊島等)で補助・支援しています。例として(1)前後に2名乗るか1人乗りタイプ:日産「ニューモビリティコンセプト」(本頁写真)、トヨタ「コムス」「iロード」、ホンダ「MC-β」など。(2)横に2名乗るタイプ:ユアサと光岡自動車による「ライクT3」(表頁写真)。

★国土交通省は、半額を補助し、全国50近くの地域で、超小型EV導入を支援する。
→2大用途は、「観光」「シニア」

地域	観光	環境・技術(都心実験)	高齢者・福祉	住宅(郊外、地方)
2010年実証実験6地域	東 北 岩手県平泉市	東 東 栃木県宇都宮市	東 東 東京都千代田区	
2011年実証実験7地域	東 北 青森県	東 東 神奈川県横浜市	東 東 東京都千代田区	
2013年の本格的な導入促進事業30地域	東 北 岩手県平泉市	東 東 神奈川県横浜市	東 東 東京都千代田区	



港まちづくりタイムズ みなとぐるぐる プロジェクト 特集



発行者: 港区産官学連携会議「港区CRテーブル(港区役所、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪市立大学創造都市研究科小長谷研究室)」
発行日: 2016年12月30日 編集事務局: (一社)港まちづくり協議会大阪(大阪市港区築港3-7-15 港振興ビル206A 06-6572-0017)

超小型EV試乗会 にあたって



港区長 田端尚伸

来年(2017年)は大阪港開港150年です。慶応4年(1868年)、現在の西区川口で大阪港は外国に向けて開港、明治30年から西村捨三氏を先頭に築港に取り組み、難工事を乗り越え、明治36年に海の入川・中央突堤に大阪の悲願であった築港頭大橋が完成、その後日本屈指の近代港として大きく発展しました。

更にその昔「江戸時代には天下の台所・大坂の海の玄関口としてにぎわった天保山。このように、このエリアは古くから大阪の川と海の結節点として国内外から多様な人々を受け入れてきました。

そして今、天保山に突如現れたポケモンGOのブレイカー。全国有数のゲームスポットとして大きく賑わう一方で、ごみや違法駐車など住民生活に大きな影響を与えています。区役所として警察や関係機関等と連携し、ブレイカーにマナーの向上を強く呼びかけ、「多様な人々」として「共存」をめざしたいと思います。

さて、歴史や自然が育んだ「宝」の宝庫のこのエリア、宝を結ぶ回遊性の向上が課題です。6月26日、大阪市立大学の授業の一部として実施されたモビリティを活用した実証実験に参加させていただきました。

個人的なデザインのエコ三輪車、静かな一方で強力な加速、空気をダイレクトに感じる爽快感。乗っているだけでも楽しく、ワクワクします。小さな宝島を見て楽しい。乗って楽しい。モビリティで回遊できれば、まさに「まちがまるごとテーマパーク」に！

超小型EV試乗会



2016(平成28)年6月26日(日) 築港の足を考える超小型モビリティ(電気自動車)実証実験としての試乗会が以下の通りおこなわれました。2016(平成28)年6月26日(日) (関係者集合時刻) 12時(開演) 午後13時~15時。築港の赤レンガ倉庫横広場(GLIIONミュージアム横広場、港区海岸通2-16-139)、(来賓)港区長、大正区長、市議会議員様他。(協力) 大阪市立大学COOPプロジェクト、ユアサM&B、光岡自動車、一般社団法人港まちづくり協議会大阪。※大阪市立大学の授業の一環であり、実証実験として、築港・天保山エリアおよび商店街、なみはや大橋等を参加者が試乗。車両はユアサM&Bのご好意により「ライクT3」(ユアサM&B(機械)と電池)・十光岡自動車製、横に2名乗れる超小型EV)を使わせていただきました。参加者の感想は「非常に楽しい」「思ったよりずっとスピードと加速力があるのにびっくり」など。

2016(平成28)年7月31日(日) 同じ観光地である有馬温泉における超小型EV活用研究

築港と同じ観光地である有馬温泉において超小型EVの活用実証を地元リーダーにうかがい、今後の学生の安全と利用研究のため調査をおこないました。

【参考文献】電子ジャーナル『創造都市研究e』<http://creativity.gsc.osaka-cu.ac.jp/ejcc>のアーカイブからダウンロードできます。①松本英之(2016)「旧港再生モデルにもとづく港まち再生のイメージ戦略と地域マーケティング」『創造都市研究e』第11巻第1号。<http://creativity.gsc.osaka-cu.ac.jp/ejcc/article/view/752> ②松尾高英(2015)「超小型モビリティの展開と観光地振興の可能性」『創造都市研究e』第10巻第1号。<http://creativity.gsc.osaka-cu.ac.jp/ejcc/article/view/720>

みんなで盛り上げよう! 2017年は大阪港開港150年

編集後記: 第3号は6月におこなわれました超小型EV試乗会の記録や市大生による交通調査の結果報告など、年間240万人の大観光地である築港の回遊性について考えました。★本タイムズのバックナンバーは(一社)ホームページ<http://minatomachi-o.jp/>をご覧ください。

港まちづくりタイムズ第3号 発行者: 港区産官学連携会議「港区CRテーブル(港区役所、(一社)港まちづくり協議会大阪(代表理事: 重山英樹)、大阪市立大学創造都市研究科小長谷研究室)」、発行日: 2016年12月30日、編集事務局: (一社)港まちづくり協議会大阪。本媒体は文部科学省のCOOPプロジェクト事業「大阪の再生・賦活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」の予算を使用しています。